なぜ今ＮＧＯ（国際民間協力団体）なのか

代表　菅波茂

国際民間協力団体に参加してボランティア活動を行なう現代的な意義は個人にとってどこにあるのだろうか。このことはあまり真剣に考えられることなしに現在にいたっている。国際民間協力団体自体の意義は大いに議論の対象になっているにもかかわらずである。もっと真摯に掘り下げて考える必要がある。国際民間協力団体を支えている構成員にとっての魅力は何なのかと。従来の使い古された「犠牲的精神」はもはや紙屑にしたい。大向こうをうならすような「犠牲的精神」を振り回されるほど迷惑なことはない。

国際民間協力団体活動に参加する発展途上国の人と日本人との間に意識にずれはないだろうか。意識の断層の有りや無しや。結論を先に言えば、「意識の断層有り」である。発展途上国の人にとって国際民間協力団体活動に参加することは「生活」そのものである。即ち、より良き「生活」基盤の選択を意味する。彼らに生活保証を提供をし得ない国際民間協力団体の存在価値は低いのである。発展途上国では政府の職より国際民間協力団体の職につくほうが給料がいいということがしばしば見られる。民間団体が国のできない分野をカバーしている場合が非常に多い。また優秀な人材が国際民間協力団体に所属している。この傾向は貧しい発展途上国ほど著明である。彼らに人道主義的な観点からの参加を要請するのは彼らにとって有り難迷惑な場合がある。

一方、日本で国際民間協力団体に参加する人の意識はどうであろうか。まず「生活」基盤確保のために参加している人はいないだろう。なぜならそれにふさわしい給料が提供されることは稀有であるから。多くは精神的に豊かな生活あるいは人生を求めての参加である。

日本人にとって精神的に豊かな生活の本質に答えるための素材を国際民間協力団体は本当に提供できるのだろうか。答えは「イエス」である。

日本の高度な資本主義社会を支えている基本概念は「時間」である。「資本主義概念的時間」即ち「Time is Money」から「契約」、「利息」、「在庫」などの「概念」が生まれて日本人の社会的生活様式を規定している。ところがこの「資本主義概念的時間」は人間の「生物学的時間」とは全く別物である。この「資本主義概念的時間」と「生物学的時間」とのずれが大きなストレスを引き起こしていると考えられる。「資本主義概念的時間」に規制された生活を余儀なくされているほどストレスは大きくなる。極め付けは「締め切り時間」が厳しい職業であろう。可能なかぎり「生物学的時間」のなかで生活することが最良のストレス対策であり治療である。例えば、現在の不況の中で普通車はあまり売れないのに野外用の四輪駆動車がどんどん売れているのは裏付けとなる興味深い現象である。

92/12

人は何ゆえに野外用の四輪駆動車を使ってまで不便な山、川や海での一時的な生活あるいは時を過ごしたがるのだろうか。そこには「生物学的時間」の感じられる空間があるから。

「生物学的時間」の中で時を過ごすことは「資本主義概念的時間」の中で生活している人にとっては最大のやすらぎかもしれない。

企業のボランティア休暇を「生物学的時間」の復活という視点からみれば、日本社会でボランティア活動することはあまり薦められない。なぜならば日本は世界でも有数の効率をもって尊としとする「資本主義概念的時間」によって営まれている国であるから。

国際民間協力団体の多くは発展途上国で活動している。国際民間協力団体は「生物学的時間」で動いている発展途上国の現地フィールドを提供していくことで「資本主義概念的時間」と「生物学的時間」とのずれが原因のストレス対策を提供できる貴重な存在である。

国際民間協力団体は「スタディツアー」を一般市民に開放している。この「スタディツアー」の意義は異文化との出会いと近代的観点からの生活様式のギャップを体験することにある。その根底にあるのは「資本主義概念的時間」と「生物学的時間」の生活様式に現われるギャップである。このギャップをもって即、貧困と憐れんではいけない。「生物学的時間」は目に見える生活様式だけだと思ってはいけない。精神の在り方をも規定している。彼らの精神の在り方にも触れればもっと豊かな世界が広がる可能性がある。

そのためには生活を共にすることが一番である。その場を提供できるのが国際民間協力団体である。

最近気になることが一つある。それは国際民間協力団体の世界にも「効率」をもって第一とする傾向が出てきていることである。

具体的には、日本人のボランティアは経費がかかるから日本人はできるだけ現場に出さずに現地の人を雇用していこうという発想である。

この発想は下記の２つの点から面白くない。

１）国際民間協力団体は「顔」ー「顔」のつながりである。という原点を忘れている。お金だけで片付けるのならミニ政府ベースと変わらない。ついつい目的を忘れて効率を急ぐことから起こりがちなことである。

「顔」ー「顔」の関係は一緒に汗を流す中から生まれる信頼関係のことである。「日本人の顔がみえない」という声を忘れてはいけない。

２）国際民間効力団体は「生物学的時間」を経験する「場」を「資本主義概念的時間」の生活で疲れている人達に提供していくことのできる存在である。

国際民間協力団体に参加している発展途上国と日本のメンバーに基本的な「意識の断層」があることを認識すると共に日本人にとって発展途上国のフィールド参加意義を確認することは今後の活動の展開に重要なことである。

92/12